

取り残された地域からの挑戦
～そこにある日本の原風景と芸術による美しいむらづくり～



こいさご
小砂village協議会

位置

栃木県



宇都宮市から約50km

むらづくりの動機・背景

誰も気がつかなかった「地域資源」を認識



海外を見てきた
ホテルスタッフの視点

「菊炭」と林業「八溝材」

小砂焼



地域で活動する芸術家



田園風景と農業



H25年

「小砂美しい村協議会」を設立
(活動名称:小砂village協議会)



自信・誇り

情報発信
PR

交流

むらづくり坂

伝統・芸術
資源等

人的資源

景観資源

産業資源

歴史的
資源

「日本で最も美しい村」連合
に加盟 栃木県内唯一



検討の土台となった「小砂地区コミュニティ協議会」

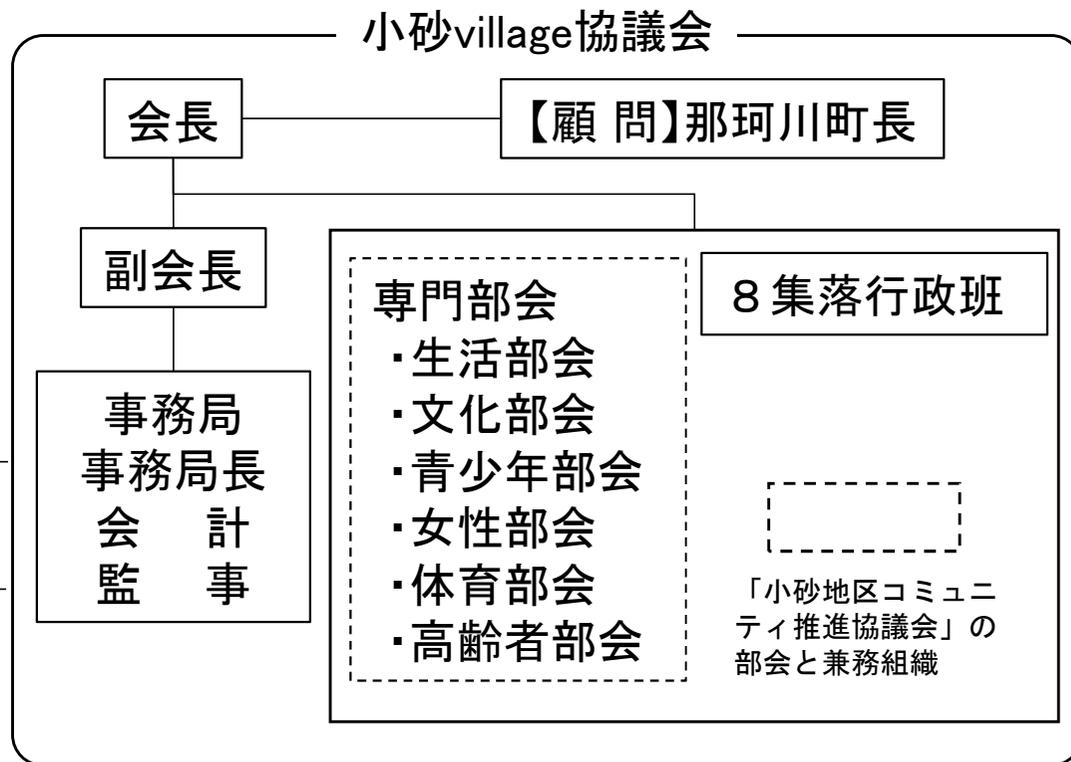
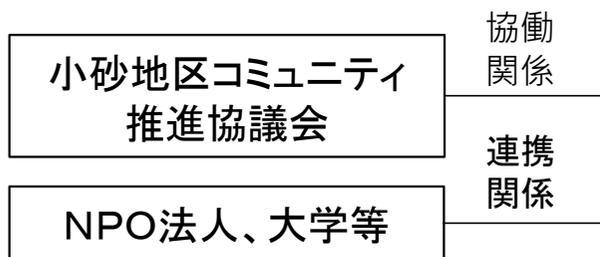
- ①「小砂地区コミュニティ協議会」は、小砂地区8集落を束ねる自治組織
- ②30年以上の活動実績
- ③住民総出によるコミュニティ活動(スポーツ大会、沿道の草刈り・ゴミ拾い等)が伝統

むらづくりの推進体制

構成員: 230戸 (小砂地区全戸 180家族)

体制図

- 「推進計画の」作成・評価
- 住民への報告
- アンケートによる住民意識の変化を確認

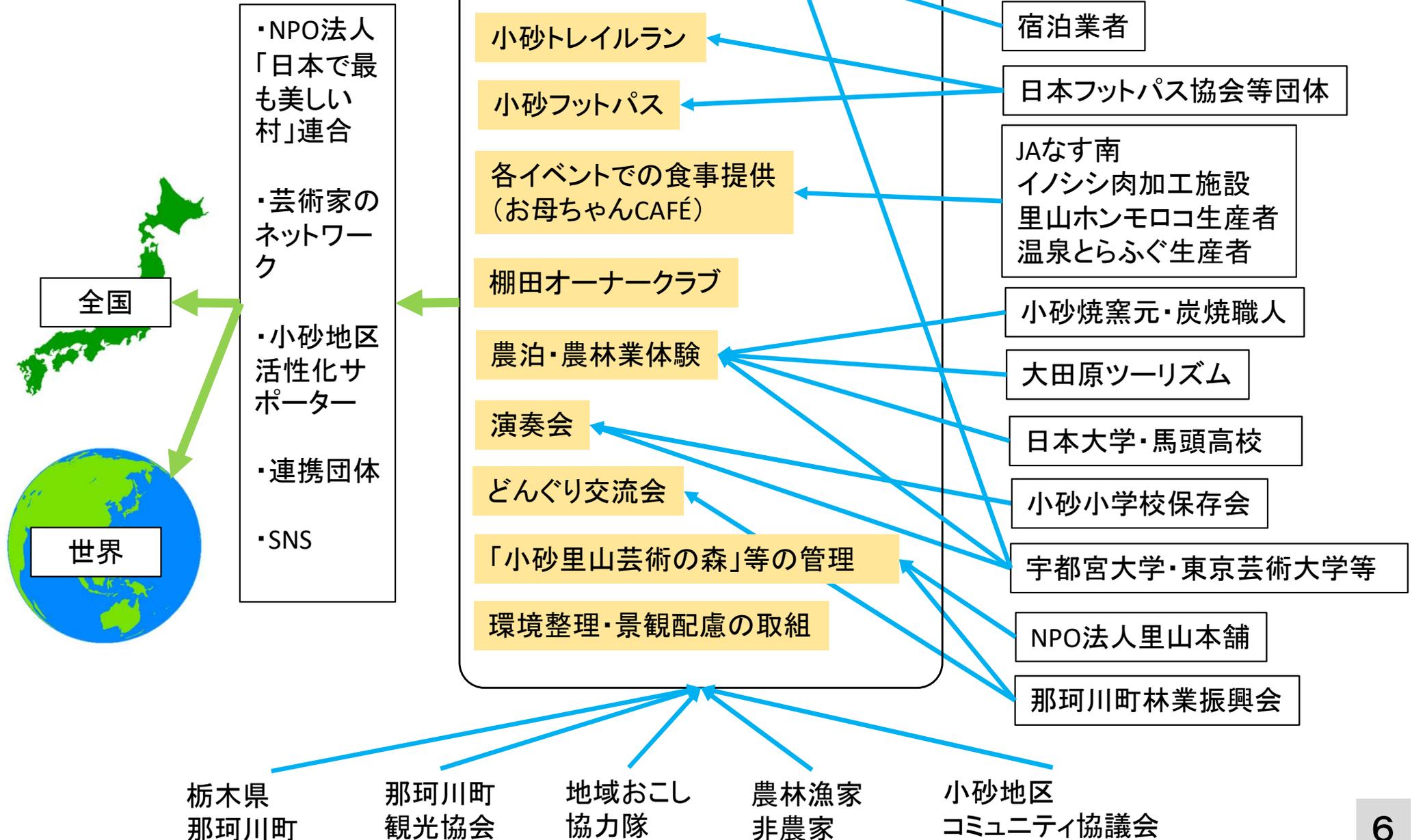


年間イベント等

イベント等	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
棚田オーナー					○	○			○		○	
農業体験等					○			○	○			
農泊受入れ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
芸術祭・コンサート等		○		○	○	○			○		○	
大学交流事業	○	○	○					○	○		○	
トレラン・フットパス等				○					○	○	○	
お母ちゃんCAFÉ				○	○	○			○	○	○	
運営委員会・視察等		○	○				○				○	○

むらづくりの取組（取組概要及び連携体制）

← 連携・協力
← 情報発信・PR



むらづくりの取組（景観保全）

環境美化活動等

- 地域住民で清掃や植栽活動を実施
- 生産活動を通じて、景観を維持
- ガードレール等を景観と調和する色彩に塗り直し



むらづくりの取組(イベント)

小砂環境芸術祭(KEAT)

- 小砂環境芸術展を2012(H24)年から毎年開催
- 小砂芸術祭は3年に1度開催し、本年4月に第3回を開催
- 第1回芸術祭(H25)には4,000人が芸術祭に訪れ、本年は6,000人が来場



地域を耕すアート

パンフレット

KEAT
キート 小砂環境芸術祭
Kosago Environmental Art Triennale
2016

2016年4月30日(土)～5月7日(土)
栃木県那珂川町小砂地区

【開催期間】 5時～17時 ※最終日のみ19時までとなります
【観覧料】 無料
【主催】 小砂環境芸術祭実行委員会
小砂Village協議会 那珂川町
那珂川町芸術委員会 那珂川町観光協会
下野新聞社・NPO法人新しいふるさと創生会

【問い合わせ】 実行委員会事務局 小砂町農道の案内
〒324-0014 栃木県那珂川町那珂小砂3102
TEL: 0287-33-0811
FAX: 0287-33-0315
【E-mail】 keat.org@gmail.com
【Web】 <http://kosago-art.net>

3 イベント「地域を耕すアート」
4月24日(日)14時/小砂コミュニティセンター



小砂トレラン

- 200人参加 (H30実績)
- 参加者には、米等の農産物及びお母ちゃんcaféの食事を提供



フットパス

- 地域おこし協力隊員が提案
- 年3回開催し、計80人参加 (H30実績)
- お母ちゃんcaféの食事を提供



演奏会等

- 活動拠点の旧馬頭西小学校等で実施
- 大学生や若手演奏家に発表の場を提供
- 収益の一部は小学校の保存活動に活用



むらづくりの取組（農業生産等）

小砂ブランド米「源流水 小砂ホタル米」

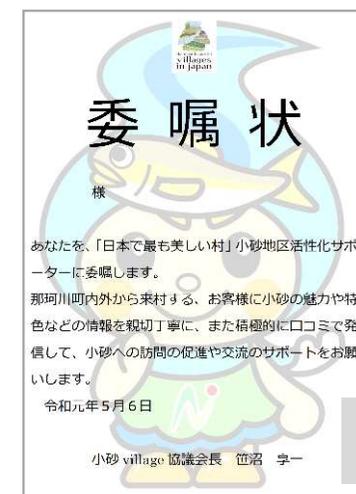
■小砂地区ブランドとしてコシヒカリを栽培。水田に引く用水は全て源流水のこだわり。500円/kgで販売。

■ラベルは芸術祭を通じて地域との交流が出来たデザイナーの作品。



棚田オーナクラブ

- 令和元年度は、10家族28名を受け入れ、年4回の作業。
- 参加者は「小砂地区活性化サポーター」へ任命。



小砂アイスの発売



むらづくりの取組（交流・体験）

- 平成26年 6 軒から始まった受入れ農家は、現在 27 軒に増加
- 東京都、神奈川の中高生の他、海外の学生を受入れ、平成30年は1,000人が利用
- 地域を訪れた学生達と地元高校生が体験を通じて、次世代間で交流
- 連携大学の学生が農林業体験を指導するとともに、農村の持つ教育・景観等の多面的機能の研究を行うフィールドとしても活用

農家民泊



農林業体験



むらづくりの取組(女性の活躍)

出張カフェ「お母ちゃんCAFÉ」

- 平成30年には、イベント等で16回 開店
- イベント来訪者へ提供(500~1,000円/食)
- 女性参加者は延べ235人



芸術家と耕作放棄地で一緒に作業



女性達の発案で立ち上げたcafe



休耕田で養殖された「里山ホンモロコ」



地元食材を使った食事



八溝山系で捕獲・処理されたイノシシ肉「八溝ししまる」



町内の温泉で養殖された「温泉トラフグ」

取組の成果

自信
誇り

里山での芸術展

各種イベントの開催

交流

取組



農地・里山の管理による鳥獣害の軽減
(H28からの被害件数は0)

人的資源の増加

定住人口の増加

成果

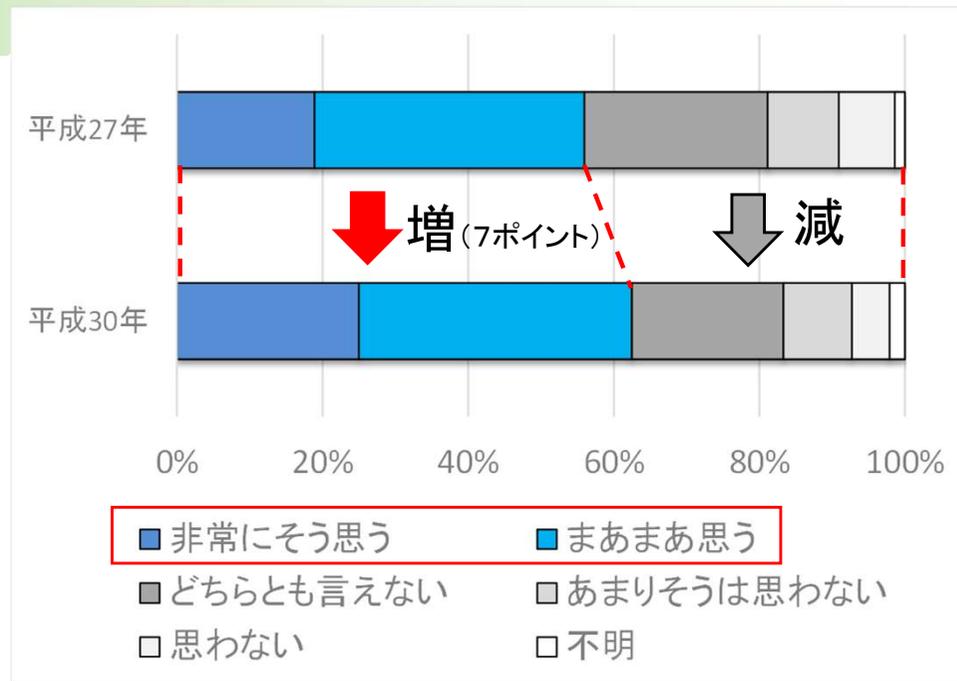


取組の成果(アンケート)

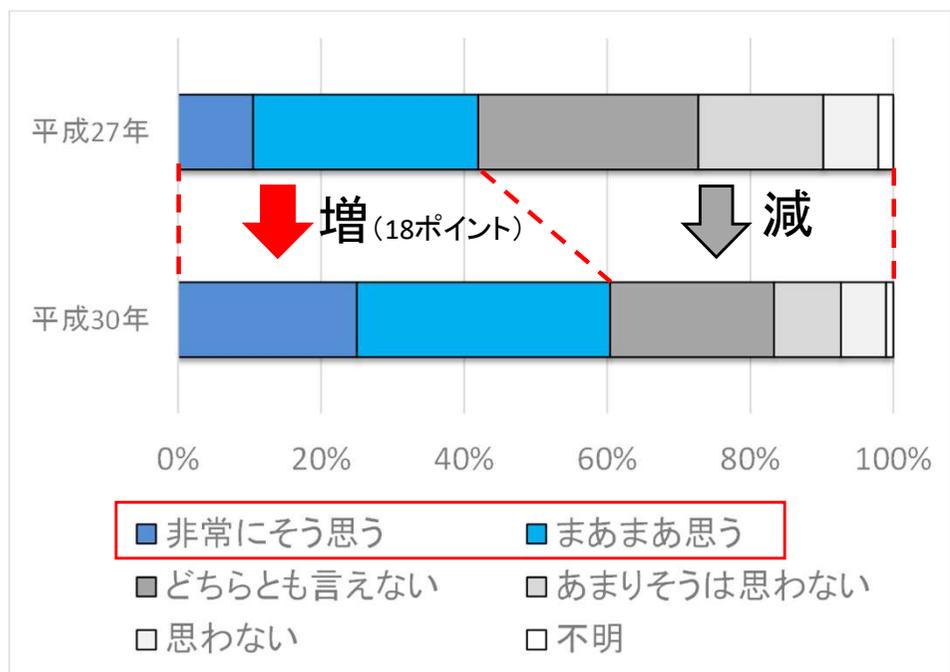
■ 日本大学等協力のもと、会員(180家族)にアンケート調査(平成27年、30年)を実施し、その成果を確認しつつ活動

■ アンケート「①地域が活性化したと思うか」、「②地域に誇りをもっているか」、「③協議会の活動へ参加しているか」に関する回答は、「非常に思う・まあまあ思う」等の選択肢が増加

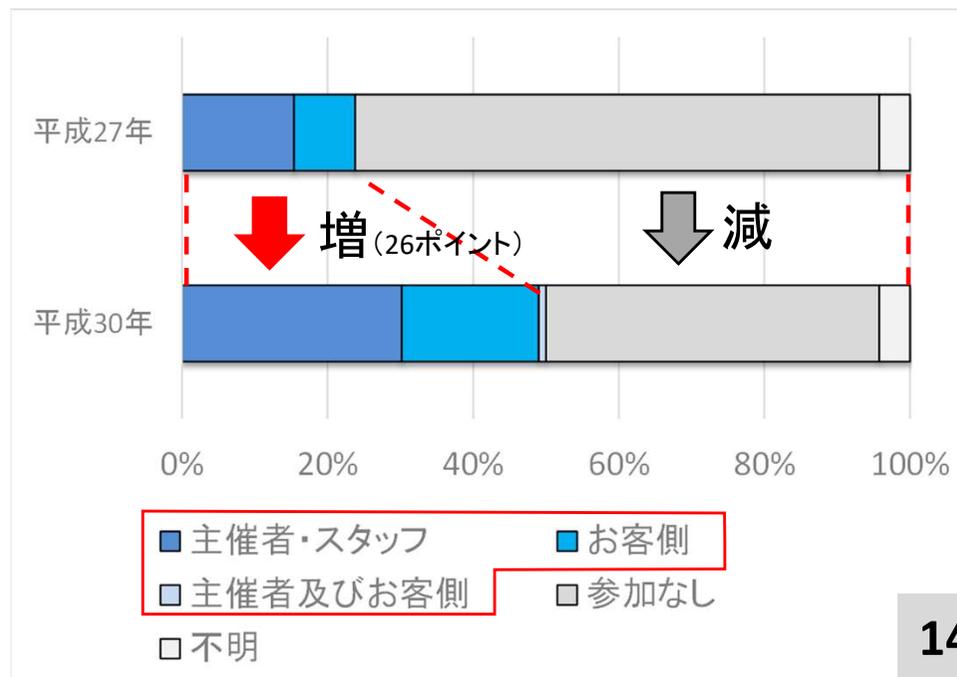
①地域の活性化について



②地域に対する誇りについて



③協議会活動への参加について



今後の取組

失ったら二度と取り戻せない農山村の地域資源を次世代につなぐ

活動方針

無償ボランティアは続かない

女性の活躍なくして地域活性化なし

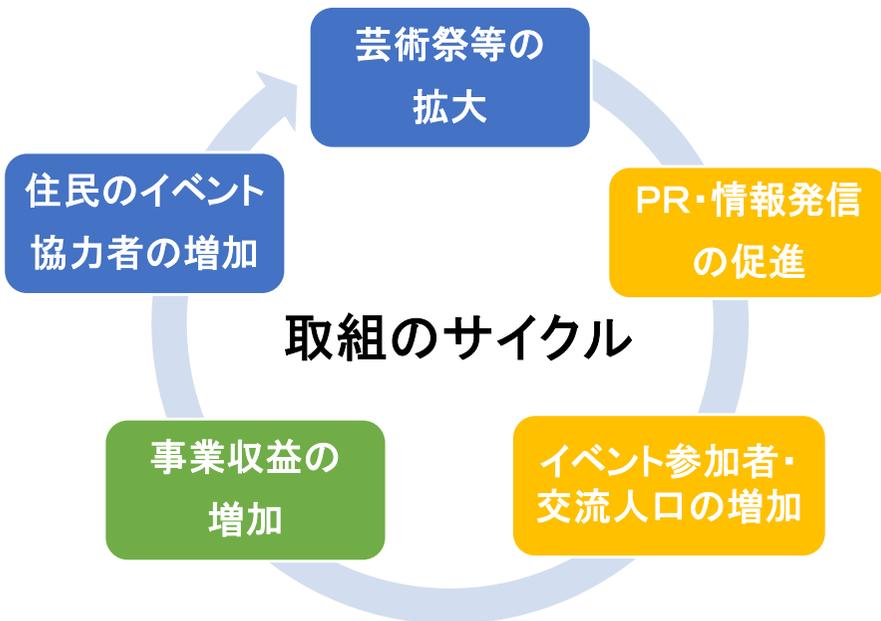
地域の一人ひとりが小砂の景観・文化の守り手

方針への対応

収支を考え、協力者の増加及び、より多くの報酬

協議会を担う人材として女性を起用、活躍の場を創造

交流を通じた更なる移住者の受入れ



NHK番組「小さな旅」でも紹介

“アートが耕した”この地に種が播かれ、咲いた花に様々な人々が集まる場所になりました。



森でお会いしましょう。